

春日権現験記 20軸 WA31-13

20-001



WA 31
13
(20)



国立国会図書館

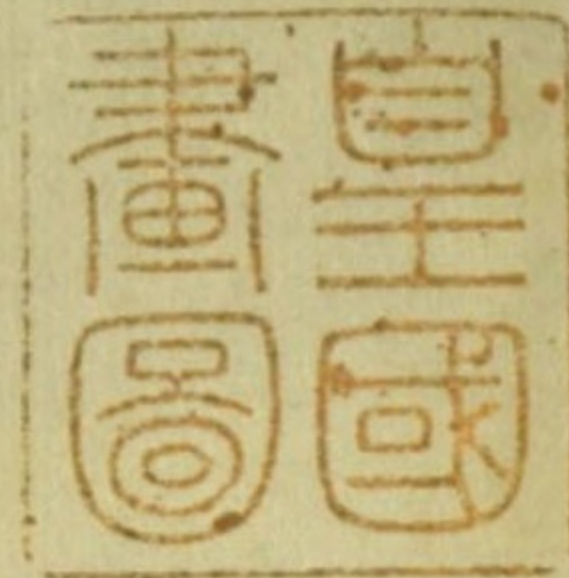


WA 31
13
(20)

箱

平





嘉元二年興福寺乃寺僧以申に大和國乃
 地頭延延する事有之關東大に之有
 て衆徒神人亦た其に之を以て當國地
 頭也之を事修す一寺なり其地を以て之を延
 電坊志月と云ふ七月乃は之を修すより春日山乃



て衆徒神人などたはくはるるはて當國土地
 以てなりき事傳き一寺なりを記す志して人々遊
 電訪志何と云ふ七月乃は志高路をより春日山乃
 本に清大黃落の期成しし之由ふ多化すらふ尺
 たり乃色を愛して椎をき神をいゆきと云う神
 護景雲二年乃御詔宣へ藤氏警昌法相護持
 志と云ふに御笠山跡成りぬ。清大黃落の
 事成て神事申例に改るるをいふ時樹本を記
 由らにりへし我昔山御成らて天城より南迄
 も流をたへしとあはれを今に何よりて登降乃と
 浪う成らして本覚名城よりらせ給ふやとあはれ
 ありし由をいふ事なり乃事と申車へまこして
 松のまに登りて地成地もてらなまの事なり
 南都へまこして九月廿日乃朝をりしふと志
 表なり大目神へのいせ給といふ由もつけい
 人との面をいふらりて見まてまはらに四方乃
 雲乃色を上乃解業法やうにむりて涼風
 くゆき敬雨もす雨く遠近乃清く星を
 大とくといふありまて社より坊給大方目
 あらり社成りて無き事清歸座乃やうに松
 明二行ふんえさり又人志をた念す寶刺乃
 燈燼乃火一度ふまえてはりあはく大目神
 いて坊給給時志いせらま時火地なり





明二行小見えさるり又人さるる念子寶刺乃
 燈爐乃火一度ふきえてはりあましく大明神
 いてあま給時荒いせよまふ時火地まひ
 事見てあま有るり女者より御樂張い出
 東行たり所なりあま踏送近衛台入替
 を乃くはあまいさるり















允我朝神國とて完朝社稷三千餘座
 各化現侍らして利益をくたはせし所
 不思議もいふも見も可なりよりい海と
 とふれ動松半箱乃好より徳臣國の
 うも子見言事なきい時末代も屬し人詣り
 して不信乃衆生乃き不掲身化儀を
 給ふえ一けし事のみ業告に釋する乃
 一伐せしにきて慈氏の一會もさるる
 前佛後佛乃中胤にむりもさるる今世存世乃
 利益をくたはし事とあれと鶴林乃
 好よりいけなるれもみさるる鶴乃案れ月
 光をたしきて却濁見國の聲にまらるる
 ようらふにいつともをさるる大徳乃
 官権をたし言給ふ更一旦乃別乃きふ
 あら初光國摩之法師のりあるれこの二海
 誠む出のてきて八世道利物乃さるる



今御志れなきへ後七と後八の御志現世乃
 官標をたはしき給ふ更一旦乃其利乃きあらふ
 あらふ初光因摩の結縁のりあるれこの二縁
 縁む此のいきてして八世道利物乃らうけし事境
 子いこふなりけり此を成事智の取現專
 難教乃枝子對出ぬうけし事なり流轉の
 凡まうして或現餘首乃此道ふあふを
 随心淨處即淨土取あま我神出たに法傳也
 社壇あに淨土よあまやふれい淨瑠璃靈鷲
 山やうて瑞雜乃中にあり掃地後清境山をい
 聖海乃外ふ老とあ是明惠上人乃靈山とやうこ
 後威御子菩提乃道と志念くもひふこのあを
 けりちりきんまも罪業業なりとて目果さ
 死しむるものい内証法性の玉淨穢をいぬい
 大明神の本地法乃乃化用して慶現となす
 地獄乃らうあをらしてはいふ若離乃縁きうて
 障因僧都人あつきて申ける海にさるにや
 此へて随類應現の引接難思られ六趣四生よ
 めらうとてい縁をいぬのてあつりさるる
 神の引導にさるる此の各友のい地獄鬼
 畜養鼻隆能乃や衆とせくへるもく思ふ
 此のいなり



神の引導にあらはしうの秘教の心授け
斎戒是乃也衆とをいへるにしく思ふ
ふりていなり

春日権現験記廿卷ありて秘教の心授けあらはしうの秘教の心授け
ひらきけり抄寫し奉秘教の心授けあらはしうの秘教の心授け
自らあらはしうの秘教の心授けあらはしうの秘教の心授け
わたりていなり
文化四年七月廿四日
左近衛朝臣信實

右二十卷者以白川少将定信朝臣藏真蹟寫之本
往年再寫畢今茲明治三庚午九月有故
収秘笈云爾

板橋貫雄誌

